



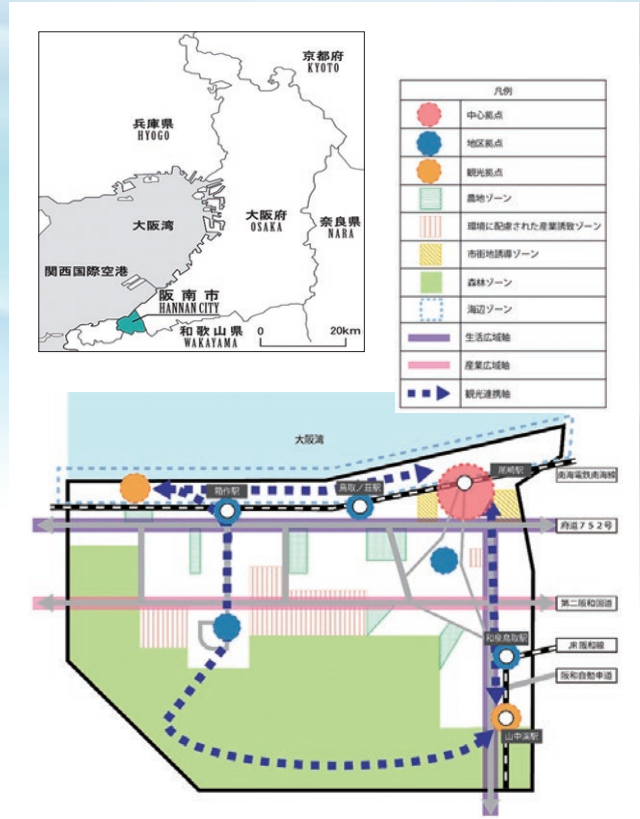
南海尾崎駅周辺のまちづくり

～エリア価値の向上・滞在が生まれる空間活用～

阪南市では、南海尾崎駅周辺を、対象エリアとして、市民主導によるまちづくりをめざしています。

- 市制施行：平成3年10月1日
- 令和7年11月末人口：49,474人
- 大阪市内まで電車で約40分
- 関西国際空港から約20分

本市では、令和4年3月に策定した「総合計画」の土地利用の方向性において、持続可能なまちづくりへ発展させていくため、尾崎駅周辺と市役所などを中心拠点として位置づけ、尾崎駅周辺エリアの都市機能を強化していくこととしています。エリアマネジメントの考え方を導入し、利害関係者(ステークホルダー)が主体的に管理運営する仕組みなど、官民連携のまちづくりを進めていくとともに、「歩く文化」の形成の核として、出かけやすいまちづくりをめざしています。



■エリアの課題

尾崎駅は、特急停車駅であり、乗降客が1日あたり約9,000人で通勤通学利用が多く、周辺に市役所、市民病院、警察署やスーパーなどの拠点施設が立地していますが、駅前空き店舗が目立つとともに、駅の海側エリアは、古民家等の空家が増加するなど、まちの賑わいづくりが大きな課題となっています。



南海 尾崎駅構内

尾崎駅周辺空き店舗状況(現地調査調べ)(令和6年11月現在)



令和6年度の取組

将来的なエリアプラットフォームの構築のための第1歩として、駅周辺の地権者ヒアリングや事業者ヒアリング、市民(地権者含む)を対象とした勉強会やワークショップを実施しました。本地域の課題の洗い出し・絞り込みを行い、先進地のヒアリング等も行いました。

また、次年度の社会実験の実施に向け、先進事例を検証し、本市のめざすべきビジョンを検討しました。さらに、今後の取組を進めるうえで、賑わい創出のための支援制度等の構築も検討しています。

浜街道エリア

出会いから、交流が生まれる
浜街道が繋ぐ歴史や文化

- 古民家・寺社等を活用したカフェなど
- 地域交流館で賑わい空間創出
- 地域資源を回遊するルート設定
街並み導線整備による歩行空間づくり
- 海岸沿いのにぎわいづくり・尾崎エリアから西島取漁港をつなぐ2次交通整備

尾崎駅前エリア

チャレンジできる空間・
小さなビジネスのきっかけの場

- 駅前跡地の活用
二次交通の拠点、多言語案内など
- 一方通行により歩行空間を確保
(常設物の道路占用・使用許可)

市役所エリア

多様な人々の多様な活動が
あふれる拠点

- 市役所前で賑わい空間創出
人や街、文化とつながり、
ゆっくり過ごしたくなる空間
- 多様な活動が可能となるルールづくり

行政 企業 地域団体 市民 住居 地権者 未来ビジョンの共有 自立・自走型システムの構築 高工会 農工商 大学 まちづくりの会社

まちなか再生に向けたビジョン実現のために
一体となって取り組む人材の集積

令和7年度の取組

「やってみよう!尾崎駅周辺まちの会議」として、昨年に検討した「市役所・駅前のにぎわい」、「空地空家の活用」、「歩く文化の形成」について、市民参加者が実施内容を決定し、社会実験を実施しました。

●はんなん3つの社会実験

- ・市役所まえばひととまちをつなぐリビングに!(市役所・駅前滞留班)
- ・古民家であそぼう駄菓子とレトロゲームの秘密基地(空地空家空間班)
- ・映えスポットのフォトラリー(周遊企画班)



はんなん3つの社会実験
2025年11月2日(日)、4日(火)、9日(日)

市役所前がひととまちをつなぐリビングに!
11/2(日) 11/4(火) 11/9(日)

古民家であそぼう!
駄菓子とレトロゲームの秘密基地
11/4(火) 11/9(日)

映えスポットのフォトラリー
11/4(火) 11/9(日)

令和8年度に向けて

本市がめざす「官民連携による共創のまちづくり」を実現するため、エリアマネジメントの考え方を取り入れた取組を進めます。具体的には、エリアプラットフォームに参画する皆さまが主体となってまちづくりを推進し、地域の賑わい創出につなげる仕組みを構築します。令和6年度・7年度の取組結果を検証しながら、さらなる具体策を展開していきます。